

重点目標 (めざす家)	具体的方策	主担当	評価指標	<評価の根拠> 達成度判断基準	教職員アンケート	児童アンケート	保護者アンケート	取組状況	評価	今後の改善点と具体的方策
1 組織的な 学校運営	①【いじめ・不登校等の未然防止】 いじめ問題等記録シート、別室登校児童対応の報告と共有で組織的対応を行う。	教頭	【努力指標】 いじめ等記録シートで報告し学年で情報を共有した。 【満足度指標】 ひだまり教室の設置で不登校傾向の児童が安心して登校できるようになったと感じる。	<実施状況・アンケートの状況> A: +評価90%~ B:80%~ C:70%~ D:70%未満	いじめ等記録シートで報告し学年で情報を共有した。 A72%、B24%、C4% ひだまり教室の設置で不登校傾向の児童が安心して登校できるようになったと感じる A69.2%、B30.8%	学校生活は楽しい。 A53.3%、B33.4% C8.9%、D3.3%	お子さんは学校生活を楽しんでいる。 A50.2%、B44.5% C5%	情報共有がよくできている。また、ひだまり教室の設置により、学級に入りづらいうちが安心して登校できている。	A	学校生活が楽しくないと感じている児童は、学年に少なからずいる。今後情報共有を徹底し、生徒指導の4視点意識した授業の実践を、生徒指導チーム、学力向上チームを中心にやっていく。
	②【放課後業務の時間確保と学年で情報共有の充実】 日課の短縮と会議を入れない日の設定、PTA各種お知らせと学級便りの電子化で放課後業務の時間確保と学年で情報共有の充実を図る。	教頭	【満足度指標・努力指標】 放課後業務の時間が確保されたと感じる。 学年間で毎日情報共有をしている。	<実施状況・教職員アンケート> A: +評価90%~ B:80%~ C:70%~ D:70%未満	放課後業務の時間が確保されたと感じる。 A38.5%、B34.6% C19.2%、D7.7% 学年間で毎日情報共有をしている。 A64%、B32% C4%					B
2 知（自分の考えを伝える子）	①【探求サイクルのある総合学習の単元デザイン】 総合の学習を中心に、探求プロセスを意識して課題解決するよさを実感させる授業を研究授業を核に探っていく。	研究	【満足度指標】 総合・生活科を中心に「授業」に主体的に取り組んでいる。「学ぶことが楽しい。」と感じている児童の割合	(教・児アンケート) A:90%~ B:80%~ C:70%~ D:70%未満	総合・生活科を中心に、子どもたちは主体的に授業に取り組んでいると思う(研究アンケート教職員)。 A13%、B65.2% C17.4%、D4.3%	総合・生活科の授業が楽しい。 A51.9%、B37.8% C6.9%、D1.5%	子どもは家庭学習に主体的に取り組んでいると思う。 A25.4%、B54.8% C15.1%、D4.7%	総合生活を核に多様な教科で児童主体の授業デザインが増加してきている。	B	今後は各学年での実践を共有し、全校職員の授業デザイン力を継続して高めていく必要がある。月一の校内研に加え、1~2週に一度程度、研修の終わりで5分などを活用した実践報告を負担の少ない形で実施していく。
	②【3つの接続詞を用いて思い・考えのやりとりのある授業づくり】 ・学び合いの中や振り返りの際に、3つの接続詞を用いて学びを深める。 ・ICT端末を活用して、対話の量を増やす。	主幹	【成果指標】 3つの接続詞を用いて学習のふりかえりを行うことができる児童の割合	単元末におけるふりかえりでの3つの接続詞を用いて書いている児童の割合 A:90%以上 B:80%~ C:70%~ D:70%未満	3つの接続詞を用いてふりかえりを書かせたことで、子どもたちが論理的に考え、伝える力がついていたと思う。 A12%、B52% C32%、D4%	3つの接続詞をつかって自分の考えをあらわすことが身につけてきている。 A30.5%、B49.4% C16.2%、D3.9%	子どもは、自分の考えをつながりをもって表すようになった。 A20.1%、B60.2% C17.7%、D2%	日々の授業の中や、重点単元においてのふりかえりでの3つの接続詞を使った思考、記述をする機会を積み重ねてきた。	C	教職員により「力がついた」の認識のレベルにばらつきがあり、自信をもって肯定的に評価できなかったよう。力がついたとする児童の具体を提示するとともに、1学期に効果的だった実践の共有を図る。
	【読書の楽しさの実感】 ・図書委員会図書室に行きたくなるようなイベントを企画し、読書を楽しむ機会を増やす。 ・学担任と図書が連携し、授業と関連した図書を活用し家庭での読書を勧め、楽しい本に出会わせる。	図書	【満足度指標】 本を読むことが楽しいと感じる。	(教・児・保アンケート) A:90%~ B:80%~ C:70%~ D:70%未満	授業等で積極的に図書室を活用して読書をする児童の割合。 A41.7%、B33.3% C20.8%、D4.2%	本を読むことが楽しいと思う。 A59.8%、B24.3% C7.7%、D8.1%	家庭では、お子さんが読書ができるように配慮している。 A15.7%、B50.8% C26.8%、D6.7%	図書委員会で、様々なジャンルの本に親しめるようなイベントを企画し、国語科において、並行読書に使う本を担任と図書で確認し、児童がすぐに手に取れるよう準備した。	B	児童は本を読むことを楽しいと感じているが、家庭での読書を勧め取る取組は十分でなかった。長期休業中を中心に、家庭と連携した取組を行い、楽しい本に出会う機会を設ける。図書委員会主催のイベントには、学校全体で取り組めるよう、各担任が児童への声掛けを積極的に行う。
3 徳（よさを見つける子）	①【生徒指導の4つの視点】 生徒指導の4つの視点を意識して教育活動を行えるように自身で重点目標を定め、月1回チェックシートを用いて検証を行う。	生徒指導	【努力指標】 生徒指導の4つの視点のうち2つは肯定的評価がつく。 【成果指標】 魅力ある学校づくりアンケートで「学校が楽しい」に当てはまると答える児童の割合。	<教師アンケート・実施の状況> +評価 A:~90% B:~80% C:~70% D:70%未満 <児童アンケート> A: +評価90%~ B:80%~ C:70%~ D:70%未満	チェックシートで3つの項目中2つは肯定的評価がつく。 A40%、B60%	学校生活は楽しい(生徒指導魅力アンケート)。 A61%、B30.4% C6.1%、D2.5%		・月末に次月の重点目標を定め、その月の取組についてチェックシートを用いて検証を行った。 ・教師間で授業参観を行い、参観した授業の良い点や生徒指導の4つの視点のどの項目に当てはまるかを、自分の授業でも4つの視点を意識して取り組めるようにした。	A	生徒指導の4つの視点を意識して授業を行うことができている。今後も教師間の授業参観期間を設け、参観した授業のよいところと4つの視点をつなげることで、さらに4つの視点を意識して教育活動を行えるようにしていく。
	②【魅力ある学校づくり】 各教科で学びのサイクルを回し、児童と共通理解した「わかる」を積み重ねていくことで、自己達成感・自己有能感・自己有用感を感じさせていく。	生徒指導	【成果指標】 魅力ある学校づくりアンケートで「学校が楽しい」に当てはまると答える児童の割合。	(教・児アンケート) 当てはまる A:~60% B:~50% C:~45% D:45%未満	各学年で目指す「よくわかる」を児童と共有し、学びのサイクルを意識した授業を行っている。 A12.5%、B75% C8.3%、D4.2%	授業がよくわかる(生徒指導魅力アンケート)。 A74.3%、B20.7% C4%、D1.1%	ここでの分かるは、テストで100点をとれる「わかる」ではなく、教師と児童が共有した「わかる」なので、保護者アンケートでは、測れない。	・4月「魅力ある学校づくり」について確認し、それぞれの学年で「わかる」について共有した。 ・7月末、1学期のアンケート結果をもとに検証を行い、「わかる」について再確認するとともに、2学期の方向性を学年間で共有した。	A	教師と児童の「よくわかる」の捉え方に違いがあることがアンケートのA評価の結果からうかがえる。教師間で再確認した「わかる」を児童と共有し、児童が「わかる」を積み重ねられるように取り組んでいく。
4 体（自分の命を自分で守る子）	①【感染症対策、熱中症予防】 手洗いのポスターや熱中症指針の掲示を見て、自分の命や健康を守るための行動を取ることができるようにする。	保健主事	【成果指標】 新型コロナウイルス感染症や熱中症を予防するための正しい行動を自分で考えてできている。	(教・児・保アンケート) +評価 A:~85% B:~75% C:~65% D:65%未満	新型コロナウイルス感染症や熱中症を予防するための行動を自分で考えてできている。 A57.7%、B30.8% C11.5%	新型コロナウイルス感染症や熱中症を予防しようと考えて学校生活が送れている。 A54.2%、B38% C7.2%、D0.6%	学校は、校外での安全指導に努め、事故防止に配慮している。 A32.1%、B60.2% C5%、D2.7%	感染症を呼び止めるために手洗いの取り組みを行った。各クラスで「この時間には手洗いをしよう」という目標を立てて取り組んでいる。 熱中症予防については、熱中症指針の掲示を行い、児童自らが指針を見て命を守るための判断と行動ができるようにした。	A	コロナ対策のために手洗いの目標を各学年で決めていくことを2学期も継続して行ってきた。各クラスで「この時間には手洗いをしよう」という目標を立てて取り組んでいる。熱中症予防については、熱中症指針の掲示を行い、児童自らが指針を見て命を守るための判断と行動ができるようにした。
	②【食育を通じた望ましい食習慣の形成】 学校給食を活用した給食時間における食に関する指導の推進する。	保健主事	【成果指標】 学級配布資料を活用し、毎月の給食目標などについて指導している。	(教・児アンケート) +評価 A:~85% B:~75% C:~65% D:65%未満	学級配布資料(ばくばくだより)を活用し、給食目標などについて指導を行っている。 A30.4%、B52.2% C8.7%、D8.7%	給食目標を意識している。 A43%、B43.6% D4.2%		ばくばくだよりを学級に配布し、給食目標や食材の紹介についての指導を行ってきた。 給食委員会の放送で噛むことの大切さなどについても紹介した。	B	ばくばくだよりを配布するだけでなく、各学年のクラスルームに投稿し、担任が児童へ指導しやすいようにする。毎月の始めには職員全体に指導するよう声掛けを行う。
	③【体力アップ1校1プラン】 ゲーム要素を加えた運動を授業の始めに行い、細かい動きができるようにする場を設定したり、段階的指導を行ったりしていく。	保健主事	【努力指標】 提案された予備運動や段階的指導を行った教師の割合。	(教・児アンケート) +評価 A:~85% B:~75% C:~65% D:65%未満	児童自らが体力・技能の向上やけが防止について判断できるよう、各種目・領域の段階的指導や予備運動を行っている。 A30%、B60% C10%	体育の授業は楽しい。 A58.6%、B32.6% C5.7%、D3%		ゲーム要素を加えた運動を新学期の初めに共有し、授業の最初に行えるようにした。段階的指導を行えるように思い、研修を開き、指導法を共有した。	A	児童、職員が技能の向上や怪我の防止ができるように段階的指導法を単元に合わせた共有し、授業に活かしていくことができるようにしていく。ゲーム要素を加えた運動を授業の始めに行っていくことを継続していく。
5 家庭・地域との連携協働	①【学校運営協議会の充実】 読書活動とふると学習の推進、学習サポーター等、学校運営方針に沿って地域ができることを協議し、実行していく。	教頭	【努力指標】 学校は、地域や保護者の力を積極的にいかして教育活動を行っている。	<保・教アンケート> A: +評価90%~ B:80%~ C:70%~ D:70%未満	読書ボランティアの読み聞かせ・学習サポーター等、学校は、地域や保護者の力を積極的にいかして教育活動を行っている。 A88.5%、B11.5%	見守り隊や読み聞かせ、学校の勉強のお手伝いなど、自分地域の人を支えられていると感じる。 A70.8%、B26.5% C2.1%	読書ボランティアの読み聞かせ・学習サポーター等、学校は、地域や保護者の力を積極的にいかして教育活動を行っている。 A39.1%、B55.2% C4.3%、D1.3%	5・6年生の裁縫、調理実習のサポートは担当教員の大きな手助けとなった。また、2年生と5年生の計算サポートでは、計算の苦手な児童が生き生きと計算練習に取り組んでいた。	A	地域の方学習サポートは、教員にも児童にもプラスの効果がある。今後も学力向上チームと連携し、学習サポートを実施していく。
	②【開かれた学校づくり】 学校教育活動を家庭や地域に積極的に発信し、開かれた学校づくりに努める。	教頭	【満足度指標】 ホームページやコードモン、クロームブックを使って、教育方針や学校教育活動などをよく保護者に伝えている。	<保・教アンケート> A: +評価90%~ B:80%~ C:70%~ D:70%未満	学校は、ホームページやコードモン、クロームブックを使って、教育方針や学校教育活動などをよく保護者に伝えている。 A74.1%、B25.9%	学校は、ホームページやコードモン、クロームブックを使って、学校のことをよく保護者に伝えている。 A38.5%、B56.2% C4%、D1.3%	学校から出す便りは基本、全て電子化し、コードモンを使って配信した。クロームブックのクラスルームを使った発信の活用は、各学年または学級に差がある。	A	学級便りのわかりとした、クロームブックのクラスルームを使った配信の活用例を、GIGA担当から各学年に紹介し、各学年・各学級での活用を促していく。	